

今年も変わらない鮮やかさ 河之内で紫陽花が見ごろ迎える

6月中旬から7月上旬にかけて、河之内地区で紫陽花が見ごろを迎えました。

惣河内（そうこうち）神社では、赤、青、ピンク、白など鮮やかな色で山道脇を彩りました。

白猪の滝入り口付近でも紫陽花が一面に咲き、サイクリストが自転車を止め、撮影を楽しむ姿が見られました。

（写真は、白猪の滝農村公園駐車場横で撮影）



五穀豊穡と無病息災を願って 牛渕で虫送り 被災地へエール送る

鐘と太鼓の音に合わせ、笹の先にお札を付けたものを子どもたちが手に持ち、その音に合わせて虫を追いながら水田のあぜ道を通り、農作物の豊作を祈る「虫送り」行事が7月18日に牛渕地区で行われました。

今年は、豪雨災害で大きな被害を受けた熊本県人吉市へ子どもたちが思いを込めた手紙と数珠のお守りが送られます。



地域を知って将来を考える 東温高校生が地域を学ぶ

6月25日、東温高校で加藤市長の東温市のまちづくりについての講演や市産業創出課職員による東温市の中小零細企業の紹介等が行われました。

普通科1年丹生谷俊貴さんは「東温市の中小零細企業について知る良い機会になりました。将来就く職業の選択肢が広がりました」と感想を述べ、和田爽汰さんは、「将来は理学療法士になって地元で就職したいです」と話してくれました。



東温から全国へ！そして世界へ！ 八木選手と平岡選手にスポーツ栄誉賞

顕著な功績を讃え、お二人に東温市スポーツ栄誉賞を送りました。

八木孔輝さんは18歳以下男子ソフトボールワールドカップにピッチャーとして出場。平岡一高さんは65歳以上の全日本テニス選手権男子シングルスで優勝しました。お二人は「とても刺激的な日々だった。これからもスポーツの発展に尽くしたい」と話しました。

先月、西日本を中心に記録的な大雨が集中して発生しました。改めて自然の脅威と災害に対する備えの必要性を感じました。（写真は県道152号線、山之内地区での様子）

山間部や河川流域の多い東温市では、土砂災害が発生すると予測される危険箇所が747箇所あります。東温市防災マップやホームページを見て、河川が氾濫した場合には何m浸水してしまうのか、土砂災害が起こりやすい場所ではないかなど、自宅や学校・職場等のよく立ち入る場所には、どのような危険があるのか確認しましょう。また、東温市が指定している避難場所を確認して、



土砂災害警戒情報が発表されたとき、私たちがとる行動は

警戒レベル	避難行動	避難情報
警戒レベル 5	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	災害発生情報
警戒レベル 4	全員避難 速やかに避難しましょう。避難場所までの移動が危険な場合は、お近くまたは自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難勧告 避難指示（緊急）
警戒レベル 3	高齢者等は避難 避難に時間を要する人とその支援者は避難を開始しましょう。その他の人は避難の準備を整えましょう。	避難準備・ 高齢者等避難開始
警戒レベル 2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	洪水注意報 大雨注意報
警戒レベル 1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報

避難情報の入手方法	防災行政無線 …聞こえないときは、☎0120-600-041（通話料無料）で聞き直せます。	Lアラート …放送事業者を通じて避難情報などをテレビなどで配信します。
	緊急速報メール …災害情報を該当エリアの携帯電話端末に一斉配信します。	ラジオ …持ち運びができ、放送設備の復旧が早く、災害時の情報収集に活躍します。
	どうおんメール …災害時は防災情報や避難情報などを、平時は行政情報などを配信します。	SNS …Twitter（ツイッター）などでリアルタイムの情報収集・発信が可能です。

そこまでの経路や移動手段について家族で計画しておきましょう。
高齢者や乳幼児が家族にいる、障がいを持っているなどによって移動時間も変わります。
避難所での生活を考え、リュックなど両手を使える袋に1日程度生活するための防災セットをまとめてお

きましょう。
土砂災害の前兆を見つめるために、がけや川などに近づきすぎるのはかえって危険です。
天気予報の降雨情報で「1時間に20ミリ」「降り始めから100ミリ」「土砂災害警戒情報」という言葉が出たら注意が必要です。
愛媛県では、昨年5月29

日から災害時に皆さんが避難行動をすぐに取れるよう、防災情報を5段階の警戒レベルにより提供しています。
警戒レベル3～5の避難情報は東温市が発令します。
いざというときのために、普段から災害情報を受け取れるようにしておきましょう。



1_ これからの生活で気をつけるポイントを出し合った／2_ 教材はNPO 消費者支援グループひめま（代表：武田咲枝さん）が、愛媛県のSDGs普及促進補助事業を活用して制作したもの／3_ 班ごとに産地や賞味期限から食材を選んだ／4_ 食品ロスの約半分が家庭から出されている／5_ SDGsの17目標。初めて知った人も多かった／6_ 家庭科の片岡先生。SDGsのロゴバッジを胸に付けて授業を行った。



東温市消費生活相談窓口

さきえ 武田咲枝 相談員

Profile

東温市・砥部町・松前町で消費生活相談員として勤務。金融広報アドバイザーとしても活動。県内各地の小中学校で消費者教育出前授業を実施。3児の母。

SDGsをより身近に「自分ごと」として理解してもらうため、「もったいない」をテーマに、買い物体験を通じた出前授業を行いました。

もったいないを減らすために、理由を考えながら3つの食材の中から1つ選択する買い物体験により、地産地消や食品ロス・環境などにも配慮したSDGsにつながる買い物の仕方に気づくことができました。

SDGsについてもっと多くの人に知ってもらい、自分たちにできることは何かを一人ひとりが考え、持続可能な社会の実現に向けて、最初の一步を踏み出すきっかけになることを期待しています。

産地や賞味期限の違いからゲーム形式で選択していきました。

生徒の皆さんは、「品質や産地から食材を選びました」「たくさん入って安く売られている食材でも、使い切れるかを考えて、別の商品を買いました」と話し、武田相談員は、「SDGsの17目標のうち、日本は3つしか達成され

ていません。食品ロスもすぐに解消できるものではないからこそ、意識して生活していくことが必要です」と伝えました。

片岡先生は「中学生でもできることがある。ちょっと考えてできる範囲での行動が集まれば、大きな力になる」と締め括りました。

私たちの行動で世界を変えよう。少し大きなテーマですが、皆さんはSDGsという言葉をご存知でしょうか？

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」のことで、2030年までにより良い社会を目指すという世界的な目標です。

今回の授業で生徒の皆さんは、カレーに使う食材を、

私たちの行動で世界を変えよう。少し大きなテーマですが、皆さんはSDGsという言葉をご存知でしょうか？

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」のことで、2030年までにより良い社会を目指すという世界的な目標です。

重信中学校 SDGs 特別授業 「食品ロス」を減らすために 私たちができること

7月14日、重信中学校2年1組の皆さんが、食品ロスをテーマにした特別授業を受けました。

家庭科の片岡先生と一緒に講師を務めたのは、東温市消費生活相談員の武田咲枝さん。日本の食料自給率や一人あたりの食品ロス排出量、食べ残しを減らすための「世界共通の合言葉」をクイズ形式で出題しました。

日本の食料自給率は約40%。半分以上を海外から輸入しているにもかかわらず、一人あたり一日でお茶碗一杯分の食品ロスを出しているそうです。

この問題は、食糧や野菜を育てるために使った水のロスだけでなく、海外から食糧を運搬するために排出される二酸化炭素のロスも生み出しています。

そんな食品ロスを減らすために、「もったいない（MOTTAINAI）」という日本語が、世界共通の合言葉になっています。